

平成29年度自己評価最終報告書

石川県立内灘高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判断基準	備考(時期・対象)	最終評価	分析・改善策等
1	より適切な生徒個々の実態把握及びコミュニケーション能力を育成する環境整備を通して、基本的な生活習慣の確立を図る。	①	積極的な声かけ・挨拶を通じて、円滑な人間関係の構築を図る。	【成果指標】 授業の挨拶等ができた生徒の割合	授業の挨拶等ができた生徒の割合が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	C・Dなら検討	7月及び12月に調査 生徒調査 82.8% 評価 B 教員調査 95.5% 評価 A	全校統一の授業挨拶を徹底できた。周知のための教室掲示やクラスごとに評価したことが良かった。学校遅刻者数減少の足がかりとした。
		②	無断欠席・遅刻防止のために、家庭との連携を密にするとともに、学校全体として「時間を守る」生活習慣を身につけさせる。	【成果指標】 年間10回以上遅刻する生徒の数を昨年度の72名より半減する	年間遅刻回数10回以上の生徒数が A 30名未満 B 30名～36名 C 37名～44名 D 45名以上	C・Dなら検討	7月及び2月に調査 生徒課 65名 評価 D	寝るのが遅いなど基本的な生活習慣が確立できていない生徒が見られる。生徒との面談や家庭との連絡を密にして、全職員で遅刻減少を呼びかけた。
		③	多様な生徒がいることを相互に認め合う環境作りを取組む。	【成果指標】 他者との共感力と寛容の態度を育む環境作りに関する教員の校内研修を3回以上行う	校内研修会の回数が A 5回以上 B 3回 C 2回 D 1回以下	C・Dなら検討	2月に調査 相談室 4回 評価 A	校内研修会が長時間になってしまったことがあったので、次年度は少人数や短時間で行う研修を取り入れる。また、早い時期に新しく赴任した職員に対する研修会を行う。
		④	人権尊重・いじめ防止に関するさまざまな課題に取り組む。	【成果指標】 いじめ問題に「チーム学校」として、その解決に当たる	いじめが起きた場合、教職員、カウンセラーなど全員で対応しているという肯定的評価が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	C・Dなら検討	12月に調査 教員 教員調査 100% 評価 A	全職員で事案に対して対応した。今後も他人ごとにせず、他の学年や他のクラスという考え方をせず、全職員で対応していく。面倒見の良い学校・先生を目指す。
		⑤	自転車乗車マナーの向上を通して、規律を尊重する態度を養う。	【成果指標】 県警による交通違反指導件数を昨年度の52件より半減する	年間交通違反指導件数が A 20件未満 B 20件～26件 C 27件～34件 D 35件以上	C・Dなら検討	2月に調査 生徒課 15件(1月末現在) 評価 A	交通安全教室の実施や全校集会での呼びかけが激減の理由と思われる。来年度も様々な機会に交通安全に関する指導を入れていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		今年度の取り組みの説明を聞いて、遅刻防止や挨拶の徹底など学校全体としての指導により、昨年と比べ良くなっている。						
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法		朝の挨拶運動、集会、ST等多くの機会を捉えて規範意識の醸成に努めていく。						
2	本校の現状に見合ったICTの効果的活用法の開発やアクティブ・ラーニングの視点に立った授業を通して、興味・関心・意欲の高揚及び基礎学力の定着を図る。	①	基礎学力の定着のために授業の進め方や授業内容の工夫改善を図る。	【成果指標】 個に応じた指導や教材、教員の工夫によって、授業内容がよく分かったと答える生徒の割合	授業がわかりやすいと感じた生徒の割合が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	C・Dなら検討	7月及び12月に調査 生徒 85.3% 評価 B	昨年度87.4%から2.1ポイント減少したが、概ね生徒は分かりやすいと答えている。次年度は、積極的なICT、BYOD、授業支援アプリを活用した授業改善とともに、生徒が臍に落ちる・共感できる・ワクワクする授業をどの教員も実施できるように進めていきたい。
		②	年間を通して、全教師が互いの授業を参観し、課題意識を持って授業改善に取組む。	【成果指標】 教員同士が意欲的に授業を参観し、参観後は授業者の授業改善の基になる授業参観シートを提出	互見授業をした平均回数が A 10回以上 B 7～9回 C 4～6回 D 4回未満	C・Dなら検討	7月及び12月に調査 教員 回数 25 人数 22 平均 1.1回 評価 D	「ふらっと参観」と題して、フローリングワイパーを持って校内巡視をする取り組みは、多くの先生方に実施していただいた。参観シートとの兼ね合いについては、朝礼等での周知をより積極的に進めていく必要がある。
		③		【成果指標】 全ての教員がICTを活用した授業を実施し、教科会で報告し授業改善に活かす。	ICTの活用など授業に工夫が見られるとする肯定的評価が A 75%以上 B 70%～74% C 65%～69% D 65%未満	C・Dなら検討	7月及び12月に調査 教員 生徒 生徒調査 93.6% 評価 A 教員調査 81.8% 評価 A	「UJK通信」と題して、授業改善のための通信を計7回発行し、積極的に情報を提供することができた。今年度プロジェクターを3台購入するなど、よりいっそうICTの活用を進めることができた。次年度は、校内研修会の中でより効果的な活用実践を共有できる内容にした。
		④	課題・宿題等について工夫するとともに、提出を徹底させる。	【成果指標】 課題・宿題等を期日までに提出する生徒の割合	提出状況が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	C・Dなら検討	7月及び12月に調査 教員 生徒 生徒調査 82.9% 評価 B 教員調査 95.5% 評価 A	各教科における明確な成績基準の周知、成績不良者対象の課題勉強会の実施によって、進めることができたが、昨年度87.8%から4.9ポイント減少してしまった。次年度は、教員間の基準(提出期限日以降の課題の受け取りや出題量等)を共有し、組織として統一したい。
学校関係者評価委員会の評価		スマホのアプリ「ロイロノート」を使った授業は興味がある。この取り組みをもっとPRしてはどうか。						
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法		生徒が主体的に学力向上に取り組む方策として、スマホを使用した授業の研修を行った。より効果的な指導方法を研究していく。						

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判断基準	備考	最終評価	分析・改善策等
3 最新の進路情報の提供や地域の外部人材の積極的活用により、早期から進路意識の高揚を図る。	① 3年間を見通した指導計画に基づき、能力・適性に合った支援・指導を、外部人材の助力も得ながら行う。	進路課 各学年	【成果指標】 自分の進路に関心を持つようになり、将来を前向きに考えられるようになった生徒の割合	進路意識が向上した生徒が A 85%以上 B 65%～84% C 45%～64% D 45%未満	C・Dなら検討	7月及び12月に調査 生徒	生徒調査 77.5% 評価 B	入学時より進路について考えさせる様々な取り組みを行っていることもあり多くの生徒の進路意識は向上していると考ええる。生徒の実態を知りそれにあった内容を考えながら、引き続き継続して指導を行う。
	② ハローワークや地域の企業等と連携して、就業の支援・指導を行う。	進路課 各学年	【成果指標】 就職決定率	就職希望者の決定率が A 100% B 95%～99% C 90%～94% D 90%未満	C・Dなら検討	2月に調査 進路課	100% 評価 A	今年度は、就職希望者の動きを多少早めたこともあり、応募前企業見学にも積極的に参加、情報収集に努力したこともあり、左記のような結果となった。
学校関係者評価委員会の評価		学校で学んだことを社会に活かしてもらいたい。						
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法		同窓生人材をさらに多く活用し、地元企業の体験学習の機会を拡大する。						
4 地元内灘町の地域行事に積極的に参画し、保護者及び内灘町とともに地域社会に貢献する態度を養う。	① 学校への関心・理解を深めるため、PTA総会や学校公開週間、文化祭等の参加者を増加させる。	総務課 教務課	【成果指標】 来校者の延べ人数及びPTA総会の来校者数	来校者の延べ数が A 500名以上 B 450名～499名 C 400名～449名 D 400名未満 PTA総会の来校者数が A 70名以上 B 60名～69名 C 50名～59名 D 50名未満	C・Dなら検討	12月に調査 総務課	622名 評価 A 24名 評価 D	内高祭において、多数の来校者があり、それが人数を増やすことにつながったと考えられる。内灘町後援会での懇話会や同窓会とコラボした社会人講話も人数を増やせた要因だと考えられる。 PTA総会については平日開催であったことも要因の一つだと考える。来年度土曜日開催でどれだけ増えるか見極めたい。
	② 地域活動へ積極的に参加するとともに、地域と連携した課外活動やボランティア活動を企画・実践する。	生徒課 各部顧問 総務課	【努力指標】 地域と連携した活動の回数及び参加した生徒の延べ人数	地域と連携した活動の回数が A 100回以上 B 75回～99回 C 50回～74回 D 50回未満 参加生徒の延べ人数が A 3000名以上 B 2500名～2999名 C 2000名～2499名 D 2000名未満	C・Dなら検討	2月に調査 生徒課 総務課 進路課	20回 評価 D 818名 評価 D	「地域と連携した活動」をチャレンジ活動と外部に出て行って行ったものに限定してカウントした。校内で行う講話等は数に含まなかったため、妥当な数であると考察する。達成度判断基準を再考する必要がある。
	③ 地元中学校との交流を企画し、体験入学などを通して本校をPRする。	教務課 総務課	【成果指標】 体験入学や学校公開等に参加する中学生の延べ数 地域の中学校との交流企画の回数	中学生の来校者数が A 400名以上 B 350名～399名 C 300名～349名 D 300名未満 地域の中学校との交流の回数が A 20回以上 B 20回～24回 C 15回～19回 D 15回未満	C・Dなら検討	12月に調査 教務課 総務課	503名 評価 A 5回 評価 D	昨年度は演劇部が年間を通して定期的に中学校との合同練習会を開催していたため、左記のような達成度判断基準になった。 体験入学の人数も増やす努力が必要であるが、各部活動での交流活動がより増えるようにしていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		内灘高校ではいろんな取り組みをしている。もっと知ってもらいたい。						
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法		HPにアクセスしてもらうためにQRコードやARコードを学校からの配布物や掲示物に載せて、内灘高校の取り組みを多くの人に知ってもらえるようにする。						